

# 大八化学工業株式会社 “見方・考え方”



企業レポート

日野 彰\*

## Introduction to Daihachi Chemical Co., Ltd.

### 1. 会社概要

商号：大八化学工業株式会社  
英文名称：DAIHACHI CHEMICAL  
INDUSTRY, CO., LTD.  
所在地：〒541 大阪市中央区瓦町2-2-7  
(山陽日生瓦町ビル)  
代表者：取締役社長 吉川 均  
創業：大正8年  
設立：昭和12年6月23日  
資本金：5億円(平成9年7月1日現在)  
売上高：136億円(平成9年度)  
従業員：322名(平成9年7月1日現在)  
営業品目：難燃剤，可塑剤，安定剤，金属抽出  
剤，樹脂改質剤，農・医薬の中間体  
など  
事業所：本社，東京支店，布施工場，寝屋川  
工場，半田工場，福井工場，技術セ  
ンター

### 2. 会社の歴史と事業の見方・考え方

#### 2.1 会社の歴史

当社の創業は大正8年にさかのぼり、「大八化学」という商号はそこに由来する。今日では既に化学史の一コマとして残っている、木材乾

留の酢酸石灰からの酢酸製造がその発端で、やがてこの酢酸から酢酸エステル溶剤の製造に移った。エステル化技術は、昭和10年、それまで輸入に依存していた可塑剤の中で、現今なお使用されているTCP(リン酸エステル)・DBP(フタル酸エステル)を国産化したものが、当社可塑剤生産の始まりである。一貫してエステル技術を広めて多様な製品を生みだし、特にリン酸エステル系可塑剤、難燃剤メーカーとして、常にユーザーの要望に応えるべく努力してきた。ことに戦時中は、これも輸入に依存していた航空機およびその電線塗料用の特殊可塑剤の研究に成功、軍需工場として当社一社で需要をまかになった。

戦後はプラスチック工業のめざましい発展にともない、可塑剤・難燃剤をはじめとしたエステル類の需要も年々増加の一途をたどり、その需要に応えるべく、研究開発、製造に努めてきた。

#### 2.2 社是

当社の社是は「温故知新」と「勤儉力行」である。「温故知新」は故(ふる)くからある大切な知恵(伝統)を温めながら、工夫によって新しい知恵を積んでいこうと、というのがその大意である。殊に当社は製造業であることから、基本となるその技術にその知恵がなければならぬと考えている。

それを実行するために日々どうすればよいのか、それが「勤儉力行」で、勤勉、節儉、努力、実行である。人間が集まって社会というものを作り出した太古から、変化することのない徳目であり、未来もこのことを基本にしていくと考



\*Akira HINO  
1956年10月11日生  
1982年関西大学工学部工学研究科  
博士前期課程卒業  
現在、大八化学工業株式会社、製  
造技術部、主任、修士  
TEL 06-782-1171  
FAX 06-782-7045

えられる。

### 2.3 時代の転換期

当社の歴史に記したように、現在の基礎は、可塑剤を主とするエステル化の技術に発している。未だにその技術が蓄積され、当社の根幹をなしている。その幹をもとに、時代が求めるものに従い、その変化に適応し、枝葉をのぼしてきた。それが開発力だと考えている。

ほぼ六十年間、エステル化技術の展開の中で今日に至ってが、約十年前の冷戦終結が転回点となって、バブル経済崩壊もそれに絡まり、素材産業である当社の技術にもその影響が波及してきた。

大きくは二つの問題であり、一つは世界の国境地図の上で驚くべきことが起こり、もう一つは地球環境面と資源問題である。

これらの問題は、日常の生活の中では特に意識することは少ないが、根本のところ、過去約百年の間、それが進歩として考えられ続けていたもの、つまり科学万能合理主義思想というものが果たして妥当であるか疑わしくなってきたと考えられる。物質文明のありようが行き詰まったらしい面も見受けられる。この問題を目前にして、今、人類全体がどのような考えで進むべきか立ちすくんでいるのが実状であり、当社も製造業として、ただ前だけを見て単に物を作ればよいという、従来の事業の見方・考え方も転換しなければならないと考えている。

### 3. 技術開発について

技術開発に対する全社的な考え方は、安定した高品質の製品を効率的に生産するため、つねにプロセスの技術革新、改良に努めることである。そのため、コンピュータ制御によるプロセスコントロールを進め、安定の確保、品質管理、省力化に取り組んでいる。

当社には技術開発を効率的に行うため技術開発部門を編成している。当社の技術開発部門のテーマは、将来の基盤技術を確立することを目指して探索的開発を行い、さらに市場ニーズに密着し、将来技術の組み合わせを多角的に検討することである。これらのテーマに従い、当社の技術開発部門は、製造技術部、商品開発部、

樹脂成形チーム、特許情報チームの4部門で構成されている。

#### 3.1 製造技術部

国内外の情勢の変化にともない、製造会社は、今後ますます良質な製品をより安価にユーザーに供給することが必要になってくる。この要望に応えるべく、既存商品の根本的な製法改良、設備改良の検討を行っている。また、環境に対する配慮も企業にとって重要な課題となっており、この方面の研究も行っている。

#### 3.2 商品開発部

新規商品の開発を主たる業務としている。既存商品の改良、周辺商品の開発は、各工場の製造課にて行われる、従って当部においては既存商品の延長線上にあっても、これから少し離れた商品、そしてそれに加えて、全く新しい視点に立っての新規商品の開発を行っている。

#### 3.3 樹脂成形チーム

当社では樹脂の難燃材、改質剤などを主に製造しているが、当チームではそれらを実際の樹脂に添加して成型を行い、難燃材やその他の物性を調査している。

#### 3.4 特許情報チーム

現代はプロパテント(特許優先)の時代である。特許で他社に勝るか否かが企業の興亡を制しているのが現状である。この厳しい時代に対処するために、当チームは自社の特許出願管理をすすめるとともに、国内外の「特許と情報」を資源として、研究開発の支援、販売活動のための情報提供、生産技術改良に関する資料収集、社内特許教育等を行っている。その他の技術財産の管理、調査、情報収集、環境保全および製品等の安全性に関する資料管理などを行っている。

当チームは企業活動の支援部隊である。

### 4. おわりに

技術開発を担当する者は、物の見方・考え方を人に頼ることなく、知的で時代をよむ創造的な能力を見つけ、それを育てようとする努力を惜しんではならないと考える。

技術開発部門にとどまらず、企業には、これまでにないような適応力が求められ、体質改善が迫られているように感じられる。この地球上

で、人類とその環境に対し、いかに貢献できる  
のであろうか、そして企業という人間の集団を  
どのようにして存続し発展させることができる  
のであろうか、経済社会の難民となることだけ  
はさげなければならない。

大八化学工業の見方・考え方を紹介したが、  
これらの思想で技術開発だけでなく会社の活性化  
をすすめ、社会の一員であることの誇りを持  
ち続けたい。

